

丁農具説、土器の貯藏型と煮沸型、聚落立地の問題、原始繪畫による生活共同態の把握、土器と銅鐸の文様比較、有角石斧を石劍の模倣なりとなす等多くのすぐれた見解が組立てられて居るのは本書に於いてまさに注意すべき部分としよ。

本書に收められた古墳關係の諸編は初期古墳の副葬品個々に關するものが多い、そして『川柳村將軍塚』『金鍔山古墳』等單行本から描出されたものであるが爲に、青銅器研究の如くには完成の域に達して居らない様に見える。然し此處でも埴輪の石人石馬起源説の如き問題となるべきもの、鈴鏡による動的文化論、聖德太子磯長御廟とエンタシスを論じたもの等着眼の凡ならざる諸篇が見られる。

以上の諸篇は何れも當時の學界に清新な波紋を投じたものであり、敏感な時代感覺を備へ、常に新しい問題の所在を示さうと努力した著者の面目を今日に傳ふるものとして、今更ながらその早世がおしまれるのである。(桑名文星堂發行・A5判・六五〇頁・定價一〇圓) (今井富士雄)

### 東洋美術論考

矢代幸雄著

留學に出張に、九年にも近い日を歐米諸國に過ごした著者であるので、自らその間東洋美術の精華を目睹する機會にめぐまれた而してその度毎著者をとらへたものは遠く祖國を離れた名作に對する愛惜の情と、それらに對する彼地人士の未熟な理解に對する寂寞感とであつた。かくて著者は、一方永久に祖國を去つた名品

の面影を出来る限り正確に故國に傳へんがために最近の寫眞を得ると共に精確なる調査を行ひ、又他方に於いて祖國が、一東洋が世界の舞臺に送つた代表者をよりよく理解せしめ、その上に示された東洋の美の本質を世界に問ひ萬民の喜びとするの念願を以て觀察に志念したのであつた。本書はさうした著者の發表論文、中支那に關するもの八篇、我國美術關係のもの八篇を選んで一書となし、別に附圖一冊に精良なコロタイプ圖版五十五葉を收めたものである。

既に西洋美術に造詣の深い著者が天龍山の浮彫飛天や隋の開皇阿彌陀佛をはじめ、唐の名作三點を論ぜられた初頭の四篇は、そのまゝに一の支那佛教彫刻史であつて、そこには線藝術の極まる處、それが自らの内的要求と佛教なる外的要素の受容によつて如何に、又如何なる美を展開して行つたかが、説かれると共にまたそこに何を見るべきかについて教ふるものがある。次の四篇は支那繪畫史中見逃す事の出来ない徽宗摹張萱搗練圖や宋摹周文矩宮中圖等に關する論文であつて、宋朝畫卷に見る麗麗な著彩や全く神經の行き届いた線藝術の粹が、取り上げられ明かにされてゐる。次に日本關係のものとしては最初に快慶と西智との有銘二彫刻が紹介され、續いて大威徳明王圖と寶樓閣曼荼羅、法華堂曼陀羅等藤朝佛畫の名作が論述せられてゐる。その最後のものはそれが珍海の畫風を示す希有の資料たるのみならず、その下圖が天平の氣格を帯びたとする所から所論は自ら唐と天平、並びに藤原美術に及んで興味深きものがある。次は鎌倉期繪卷物の傑作「吉備

大臣人唐繪詞」とフリーア畫廊の地蔵懸起」とに關するもので我が繪卷物の畫史中兩者の占むべき位置や繪卷としての構成、氣格が問題とせられ、最後の二編では絢爛たる光悅の色紙と宗達、光琳の松島屏風とが論ぜられてゐる。

もとより著者は東洋美術研究に根幹となるべくして見逃すべからざる確實貴重な作品を正しく把握し之を傳へんとの意圖のもとに考證も又嚴正を期して多大の努力を拂はれてゐる。そして今かゝる希見の貴重な資料が公刊せられることによつて我々のもつ幸福は言ふに及ばず、又彼の「青備大臣人唐繪詞」がアメリカに流出した際、彼我國交の緊張の折柄にもかゝらず彼の國土で人氣を集めた事實を聞く時、そこに我々は偉大なる藝術のもつ大いなる力と意義を思ふのである。されば今の時に於けるこの書の企ての意味にも思ひ及ぶ次第である。(座右暫刊行會發行・菊倍判・本文二五四頁・挿圖三八・別冊圖版五五・定價四拾圓) (岡田芳三郎)

# 彙報

## 本會評議員時野谷常三郎博士計

本會評議員文學博士時野谷常三郎氏は一昨年十二月華甲の壽を迎へられ、以後洛北北白川に悠々自適の生活を送つて居られたが昨年十二月二十一日午前九時溘然として長逝せられた。國家の前

途正に多事なる今日博士の如き學徳の士を失ふ事は痛惜の極みと云ふ可く、こゝに謹んで哀悼の意を表する次第である。  
尙、葬儀は二十四日、天寧寺に於て、多數の名士の參列裡に嚴肅に執り行はれた。

### 哀 辭

本會評議員文學博士時野谷常三郎君、寢疾詮損ヲ蒙ラズ、溘焉トシテ卒去セラル。寔ニ痛惜ノ情ニ堪ヘズ。君ガ昭和八年十一月以還、時ニ編纂主任トシテ、或ハ庶務會計主任トシテ、本會ノ發展ノ爲ニ盡瘁セラレタル功績ハ會員一同ノ深ク感佩鳴謝スル所、今日終焉ノ儀ノ舉ハルルニ當リ、薦垂焚香以テ深厚ナル哀悼ノ悃衷ヲ致シ、冥府ニ於ケル無邊ノ勝福ヲ獲ラレンコトヲ祈ル。

昭和十七年十二月二十四日

京都帝國大學文學部内

史學研究會

### 時野谷常三郎博士略歷

明治十四年十二月二十七日 出生  
同 四十年七月十一日 東京帝國大學文科大學史學科卒業  
同 年十月二十五日 任陸軍教授

叙高等官七等

十二級俸下賜

陸軍中央幼年學校附ヲ命ス